



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ

第59期 第2四半期
報告書

2011年4月1日から 2011年9月30日まで



クリナップは宣言します 「いまこそキッチンから、笑顔をつくろう」

東日本大震災から半年以上が経過した今もなお、被災地では復旧・復興の活動が続いており、改めて被災地の皆さまには、お見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

● お陰さまをもちまして、全シリーズ商品の受注/生産が可能に…

震災の影響により受注を停止してから再開にいたるまでの間、お客さまには、お約束通り商品をお届けすることができず、大変ご迷惑をおかけいたしました。また、株主の皆さまにも大変ご心配をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

お陰さまをもちまして、2011年8月22日(月)には、受注停止を継続していた一部商品につきましても受注/生産を開始することができました。

多くの皆さまからご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

【完全復旧までの経緯】(2011年3月11日～8月22日)

3月11日から約1ヵ月間：震災の影響により操業を停止

4月11日～：一部商品から段階的に受注を再開

5月末～：システムキッチンおよびシステムバスルーム等
主要商品の受注/生産が可能に

8月22日～：受注停止を継続していた一部のキッチン
シリーズについても生産準備が整い、
全シリーズ商品の受注/生産が可能に

● 感謝の気持ちをお伝えするために、専業であるキッチンのご提供にさらに専念

主要商品の受注/生産が可能となるまでの約2ヵ月半、当社は全社一丸となって復旧にあたりました。そしてこの間、数え切れない心のこもったご支援やご声援を頂戴し、企業として皆さまとの信頼関係の大切さや、ブランドメッセージである「キッチンから、笑顔をつくろう」の重みを心に刻みました。

家族が家族として笑顔あふれる生活を共に送ること、当たり前のことですが、これこそが幸せの原点であると再認識いたしました。そして、その幸せな暮らしの中心にキッ

ンがあるのだということも再認識いたしました。

皆さまからいただいたご支援に応じて、クリナップらしく感謝の気持ちをお伝えするためには、専業であるキッチンをご提供して、皆さまに喜んでいただくことが一番だと考えております。

6月1日に発信いたしました「いまこそキッチンから、笑顔をつくろう」という宣言は、前述の深い認識から生まれたものですが、今後の当社の重要な理念の一つとして、全社員で共有して受け継いで行く所存です。

株主の皆さまへ



代表取締役社長

井上 強一

2012年3月期第2四半期累計期間の 連結決算ハイライト

- 売上高は、震災の影響から4～5月に主要商品の受注/生産休止があったものの、6月以降に急速な回復を見せ、前年同期比8.8%減にとどめることができました。
- 営業利益は、減収により、前年同期比72.2%減となりました。
- 四半期純利益は、災害による損失4億30百万円もあり、純損失1億49百万円となりました。

ごあいさつ

当上半期は、震災の影響を大きく受けましたが、5月末には体制の立直しをほぼ完了し、急速な回復を見せております。

株主の皆さまには日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社グループは、前期末に発生した東日本大震災により主力工場が被災し、ライフラインが長期にわたって寸断された影響を受け、主要商品の受注/生産の回復に5月末までを要することとなりました。そのため、上半期の3分の1の期間(4月～5月)は、お客さまの需要にお応えすることができませんでした。

また、当期の成長を加速させる大きな材料として準備を進めていた「新クリンレディ」は、5月の発売予定に約1ヵ月の遅延が生じました。しかしながら、復旧を急ぎ「新クリンレディ」の発売に漕ぎつけた6月1日より、全社一丸となって攻めの営業へと転じてまいりました。お陰さまで「新クリンレディ」の受注高はフルモデルチェンジ前に比べ毎月2～3割増しの水準で推移し、多くのお客さまのご支持を頂戴いたしております。

こうした取り組みの結果、第2四半期累計期間の連結業績は減収減益を余儀なくされましたが、四半期ごとの推移をみますと、第1四半期こそ震災の影響により大きく業績を落としたものの、第2四半期には前年同期を上回る実績を上げることができました。

この急速な回復は、当社グループだけで成し得たことではございません。復旧活動のなかで、多くの方々からのご協力、そしてご声援を頂戴いたしましたことが、当社グループ社員への力強い励みとなった結果です。

頂戴いたしましたご声援にお応えしていくためにも、当社グループは、今後、前期まで推し進めてきた成長戦略を再スタートさせ、企業価値の向上を図ってまいります。

引き続き、株主の皆さまのご支援を心よりお願い申し上げます。

株主の皆さまへ

これまでのクリナップの取り組みが市場で再評価を高めていること、新設住宅市場が堅調に推移していることなどが、当第2四半期累計期間の業績の下支えとなりました。

連結売上高の推移を四半期別に見ますと、東日本大震災が発生した2011年3月期の第4四半期と、その直後の当期(2012年3月期)第1四半期が大きく落ち込みました。しかし、受注/生産体制を、5月末に主要商品について、8月下旬には全商品ラインについて復旧を完了させたことを受け、当第2四半期会計期間には前年同期比3.1%増の279億33百万円を計上することができました。

この急速な回復の背景には、主に2つの要因があると考えております。

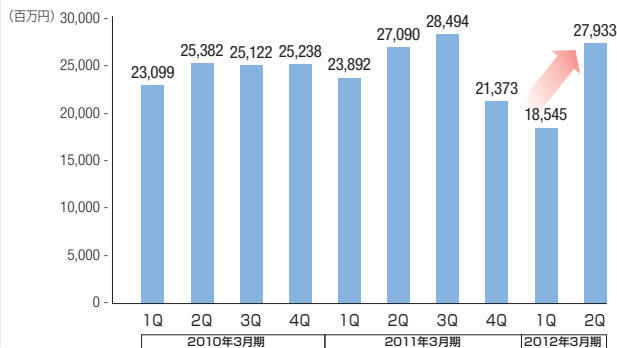
第一に、これまでのクリナップの取り組みが市場で高く再評価され、それが業績急回復の大きな下支えとなったものです。当社は、この数年間、「お客さま目線からの経営」を標榜し、専業メーカーならではの商品づくりと商品ラインナップの再構築、新たな販路拡大と信頼関係の強化、食・住をテーマとしたコミュニケーション施策の展開など、あらゆる面で「お客さま目線」に立った体制の見直しと施策の立案・実行に注力してまいりました。こうした取り組みの成果としてシステムキッチンにおける当社の業界シエ

アは確実に高まり、なかでも高級タイプ(当社ではS.S.およびクリンレディ)では、2008年3月期の13.9%を底に回復が進み、2011年3月期には25.3%まで上昇、当第2四半期累計期間においては震災の影響下でありながら19.1%と健闘を見せております。この立役者となったのが、フルモデルチェンジを行った「新クリンレディ」の躍進でした。

第二に、リフォーム市場の顕在化は未だ不十分な状況にあるものの、新設住宅市場が堅調に推移するなど、市場環境が良好であったことがあげられます。新設住宅着工戸数の推移を見ますと、震災が発生した2011年3月をはさんで、2010年6月以降15ヵ月連続で前年同月比プラスを継続しております。

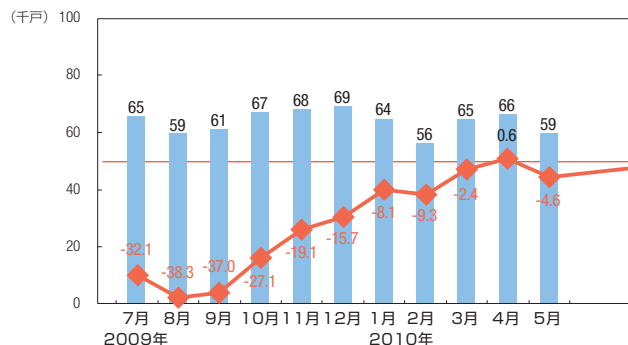
なお、当第2四半期累計期間は大幅な減収のなかで営業赤字に転落することなく連結営業利益5億20百万円を計上することができました。これは、収益体質の強化に向けて構造変革に取り組んできた効果が発揮されたものと自負しております。

■ 四半期別の売上高の推移(連結)



■ 新設住宅着工戸数の推移

出典：国土交通省 建築着工統計調査報告





震災による被災を乗り越え、前期まで推し進めてきた経営基本方針の追求を、全社一丸となって力強く再開してまいります。

当社は、5月末の主要商品の受注/生産再開と、6月1日の「新クリンレディ」発売を期して、「いまこそキッチンから、笑顔をつくろう」という宣言のもと、前期まで推し進めてきた経営基本方針を追求する取り組みを再開いたしました。

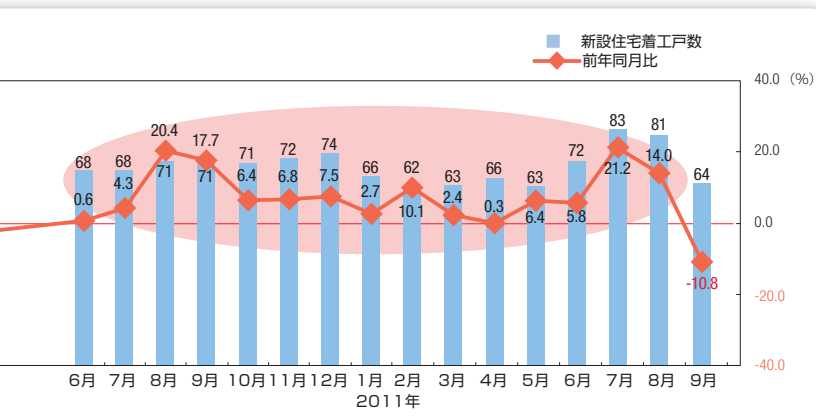
その経営基本方針とは、

経営の徹底的強化・高度化により、ザ・キッチンカンパニーを確立する

というものです。当社グループの強みは、キッチンを中心とした水まわり商品における一歩先を行く開発力・提案力であり、これは同時に、お客さまが当社グループに期待するところでもあります。だからこそ、“The Kitchen Company”への邁進を続けていかねばならないと考えております。

また、利益体質への変革の取り組みは、まだ終わったわけではございません。景気の先行き不透明感が続くなかで、より良いモノをよりリーズナブルな価格で求めようとする消費者の要望にお応えしていくためには、損益分岐点を少しでも押し下げる努力を続け、強靱な利益体質を築き上げていくことが不可欠です。

当社グループは今後、この経営基本方針の追求に、気持ちも新たに、全社一丸となって取り組んでまいります。



クリナップの企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出しております。

■ 新企業理念

創業者理念「五心」

- 一、創業の心
- 一、親愛の心
- 一、創意の心
- 一、技術の心
- 一、使命の心

創業者理念 「五心」

企業理念

「家族の笑顔を創ります」

行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を創ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

新ブランドステートメント

キッチンから、笑顔をつくろう

事業としては「キッチンダントツNo.1」をめざす
お客様に対しては「キッチンの代名詞」としての評判をつくる

活動方針

上記三つの理念(創業者理念・企業理念・行動理念)に根ざした強い人材・組織・事業を育成することにより、経営を強化/高度化し、“The Kitchen Company”を確立します。

主なトピックス

新商品



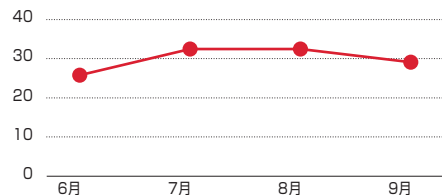
キッチンが、
ステンレスエコキャビネットの時代へ

6月に発売した「新クリンレディ」が、 大きな支持を得て順調に売上を拡大

クリンレディはこれまで、累計120万セット以上と業界No.1の販売実績を誇る、主力商品の一つです。当社はこれをフルモデルチェンジし、2011年6月1日より販売を開始しました。従来木製であったキャビネットをステンレス新素材（レアメタルを約46%削減）とし、かつ解体しやすいシンプルな設計とすることで、限りなくリサイクル可能な商品とするなど、キッチン専門メーカーとしての粋を注ぎこんでおります。お陰さまで発売以来、フルモデルチェンジ前のクリンレディの前年同月実績に対し、20%以上プラスの販売実績を続けております。



クリンレディの販売実績
前年同月比増減率の推移 (%)



ウェブ・コミュニケーション

お客さまの“スマイルライフ”を末永くお手伝いするために、 『ユーザーサポート』ページを開設

2011年5月より、当社ホームページに「ユーザーサポート」ページを開設しました。

このページから「お客さま登録」を行うことで、お客さま専用の「マイページ」を無料で利用することができます。

「マイページ」では、右のような様々な機能が利用可能となっております。その他、これまでお客さまからいただいた様々な質問に対する回答（FAQ）を、お客さまの目的や製品カテゴリ毎に整理して、検索しやすくしておりますので、是非ご利用ください。



「マイページ」で
利用可能な主な機能

- オンラインショッピングの確認
- お気に入り商品の登録
- 修理依頼履歴やリフレッシュサービス依頼履歴の確認
- サービスの申込みや修理依頼
 - ・交換部品や消耗品の購入
 - ・クリーニングサービスや機器交換など



<http://cleanup.jp/cs/>



「食・住」文化コミュニケーション

食と住に深く係わるクリナップとして、一般消費者とのコミュニケーション活動を重視

Dreamia Clubが日本初のサロネーゼ白書
『サロネーゼになりませんか?』を出版

クリナップが運営する一般消費者向け会員組織「Dreamia Club(ドリーミアクラブ)」では、食に関する様々な活動の一つとして、自宅で料理教室を主宰しているサロネーゼの皆さんのコミュニティ「Dreamiaサロン」を展開しています。

このサロネーゼの皆さんを対象に、一斉アンケートならびに全国13カ所でのインタビュー取材を行いました。そこで得た上質な暮らしのアイデアを、日本初のサロネーゼ白書『サロネーゼになりませんか?~キッチンから幸せになる おいしい生き方・暮らし方~』(出版元: 祥伝社)として、2011年4月20日に出版しました。



サロネーゼ白書

『キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー』を
今年も開催。200名を超える応募者から26名の受講者を抽選で決定



第1回「食と文化」
(10月7日開催)
講師 龍崎 英子 先生

2009年から毎年実施している寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を、聖徳大学のご協力のもと、今年も開催していきます。

2011年10月から2012年3月にかけて毎月1回・全6回の開催で、郷土料理・美学・科学・健康・安全・食育など多彩な切り口から、食に関する講義と調理実習を行います(受講料無料)。

開催にあたり参加者を募集した結果、募集人数26名に対して200名を超えるご応募をいただきました(既に募集は終了)。

CSR 関連

クリナップハートフル株式会社

障がい者が手づくりで作ったWebサイトを公開

クリナップの特例子会社・クリナップハートフル株式会社は、2011年10月4日より、障がい者自身が作ったWebサイトを公開しております。

障がいを持つ社員が、健常者と共に働く姿やメッセージが掲載されております。ぜひ一度ご覧ください。

◀ <http://cleanup.jp/heartful/>

クリナップハートフルとは…

同社の目的は、障がいを持つ社員が社会的に「自律」でき、健常者と障がいを持つ社員とが「共生」できる会社を創ることです。

社員は30名。うち障がい者は24名。様々な障がいを持った社員が、クリナップグループの給与計算、データ入力やキッチンレイアウト作成(CAD)、クリナップ本社ビルや区営公園の清掃業務などを実施しております。



連結ハイライト情報／連結部門別情報

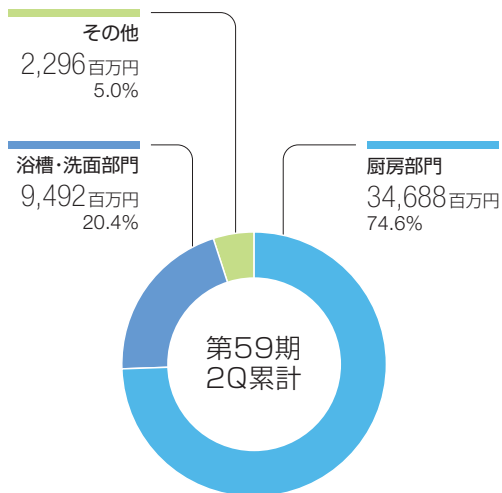
■ 連結財務ハイライト

(百万円)

	第57期2Q累計 2010年3月期2Q累計	第57期 2010年3月期	第58期2Q累計 2011年3月期2Q累計	第58期 2011年3月期	第59期2Q累計 2012年3月期2Q累計
売上高	48,482	98,843	50,982	100,851	46,478
営業利益	1,362	1,840	1,874	2,876	520
経常利益	1,278	1,679	1,760	2,590	433
四半期(当期)純利益(損失:△)	1,134	2,104	1,249	257	△ 149
総資産	75,902	76,289	78,456	75,146	81,516
純資産	51,675	52,459	53,265	51,942	51,560

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)



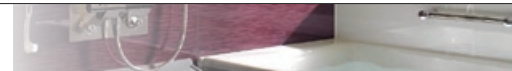
	第58期2Q累計 2011年3月期2Q累計	第58期 2011年3月期	第59期2Q累計 2012年3月期2Q累計
厨房部門	39,151	78,501	34,688
浴槽・洗面部門	9,608	17,885	9,492
その他	2,223	4,464	2,296
合計	50,982	100,851	46,478

厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「hairo (はいろ)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。



第59期第2四半期累計期間の営業概況

市場環境

当第2四半期連結累計期間の日本経済は、東日本大震災によって打撃を受けたサプライチェーンの復旧により、企業の生産活動に回復傾向が見られる一方、電力不足や欧米の財政不安による円高や株価低迷等により雇用や所得環境は依然として好転せず、不透明な状況で推移いたしました。

業績・成果

このような中で当社グループは、2011年6月、システムキッチン「クリンレディ」をフルモデルチェンジし、清潔・長寿命・ECOを実現した『ステンレスエコキャビネット』を標準装備して発売いたしました。また、8月には、震災により受注停止を継続していた一部のキッチンシリーズにつきましても生産準備が整い、全シリーズ商品の受注、生産が可能となりました。

販売面では、全国102カ所のショールームを活用した新商品フェアを実施し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深めながら、需要の獲得に努

めてまいりました。住宅設備機器業界におきましては、政府による住宅政策や低位安定する住宅ローン金利に支えられ、新設住宅着工戸数は大きく前年を上回り、回復傾向を維持しました。

めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比8.8%減の464億78百万円となりました。利益面では経費の増加を抑制したものの、減収により営業利益は5億20百万円（前年同期比72.2%減）、経常利益は4億33百万円（同75.4%減）、災害による損失もあり、四半期純損失は1億49百万円（前年同期は四半期純利益12億49百万円）となりました。

*VE活動：VE（Value Engineering）は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第59期第2四半期累計期間の部門別の状況

部門別にみますと、震災による受注停止の影響もあり、厨房部門では、システムキッチン「S.S.」は数量、金額とも2割超の減、「クリンレディ」は数量、金額とも微減、「ラクエラ」は数量、金額とも増加となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比11.4%減の346億88百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも減、「hairo（はいろ）」は数量、金額とも5割超の大幅増、洗面化粧台は数量、金額とも減少いたしました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比1.2%減の94億92百万円となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

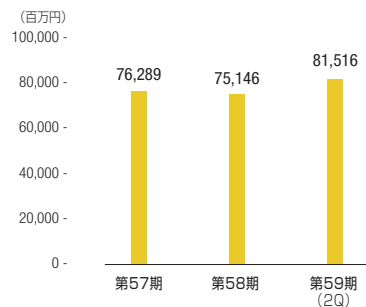
流動資産 流動資産は前期末比59億85百万円増加し558億45百万円となりました。これは主に、前期末において震災の影響により減少した受取手形及び売掛金が46億98百万円、未成工在庫の積み上がり等により商品及び製品が7億84百万円増加したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比3億84百万円増加し256億71百万円となりました。これは主に、生産設備の増強等により有形固定資産が7億60百万円増加した一方、減価償却等により無形固定資産が2億70百万円減少したこと等によります。

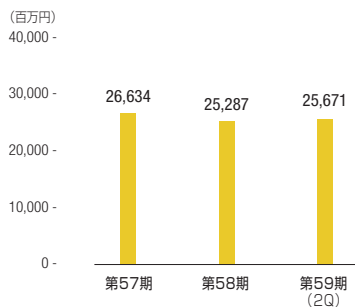
資産合計 総資産は前期末比63億69百万円増加し815億16百万円となりました。

	第58期2Q 2010年9月30日現在	第59期2Q 2011年9月30日現在	第58期 2011年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	52,802	55,845	49,859
現金及び預金	21,306	23,391	23,786
受取手形及び売掛金	25,104	24,694	19,995
その他	6,436	7,799	6,110
貸倒引当金	△ 47	△ 40	△ 32
固定資産	25,654	25,671	25,287
有形固定資産	18,527	18,801	18,040
建物及び構築物	8,456	7,951	8,106
その他	10,070	10,849	9,934
無形固定資産	2,076	1,719	1,990
投資その他の資産	5,051	5,149	5,255
投資有価証券	2,246	2,414	2,418
その他	2,910	2,857	2,926
貸倒引当金	△ 106	△ 122	△ 89
資産合計	78,456	81,516	75,146

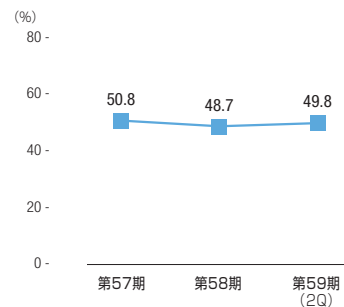
■ 資産合計



■ 固定資産



■ 固定比率





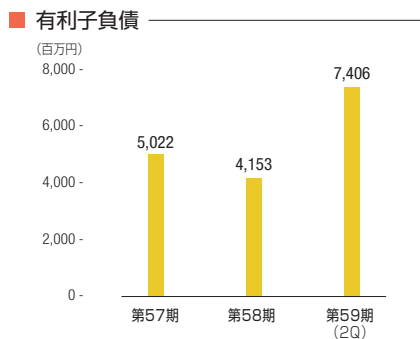
(百万円)

	第58期2Q 2010年9月30日現在	第59期2Q 2011年9月30日現在	第58期 2011年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	18,785	20,376	16,994
買掛金	6,117	6,805	3,782
その他	12,666	13,570	13,212
固定負債	6,406	9,579	6,209
長期借入金	2,065	5,067	1,583
退職給付引当金	1,598	1,779	1,784
役員退職慰労引当金	424	424	424
その他	2,317	2,308	2,416
負債合計	25,191	29,956	23,203
(純資産の部)			
株主資本	53,268	51,465	51,848
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	27,680	26,071	26,453
自己株式	△ 30	△ 224	△ 224
その他の包括利益累計額	△ 3	94	94
その他有価証券評価差額金	1	103	105
為替換算調整勘定	△ 5	△ 9	△ 10
純資産合計	53,265	51,560	51,942
負債純資産合計	78,456	81,516	75,146

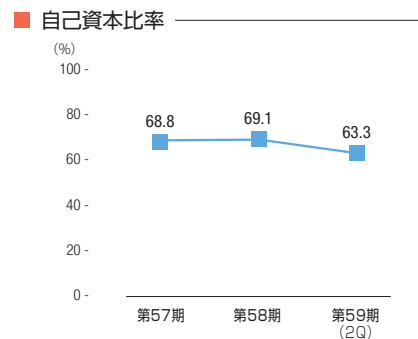
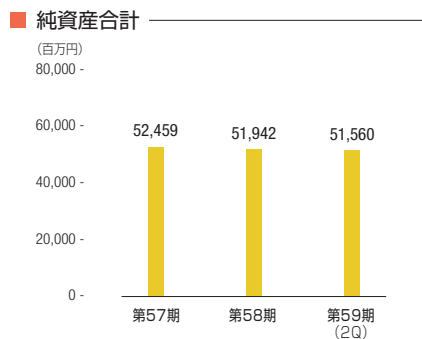
流動負債 流動負債は前期末比33億81百万円増加し203億76百万円となりました。これは主に、買掛金が30億23百万円、信託一括支払いが増加したこと等により未払金が9億2百万円増加した一方、短期借入金が2億7百万円、災害損失引当金が2億62百万円減少したこと等によります。

固定負債 固定負債は前期末比33億70百万円増加し95億79百万円となりました。これは主に、長期借入金が34億84百万円増加したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比3億82百万円減少し515億60百万円となりました。これは主に、四半期純損失1億49百万円、配当金の支払い2億32百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の69.1%から63.3%になりました。



(※) 有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金、リース債務の合計。



連結財務諸表

(百万円)

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨

	第58期2Q累計	第59期2Q累計	第58期
	2010年4月1日～ 2010年9月30日	2011年4月1日～ 2011年9月30日	2010年4月1日～ 2011年3月31日
(連結損益計算書)			
売上高	50,982	46,478	100,851
売上原価	33,179	31,055	66,736
売上総利益	17,803	15,422	34,114
販売費及び一般管理費	15,928	14,902	31,237
営業利益	1,874	520	2,876
営業外収益	274	244	508
営業外費用	388	331	794
経常利益	1,760	433	2,590
特別利益	2	24	43
特別損失	343	479	2,359
税金等調整前四半期(当期)純利益(△:損失)	1,419	△ 22	274
法人税等	169	127	17
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益(△:損失)	1,249	△ 149	257
四半期(当期)純利益(△:損失)	1,249	△ 149	257
(連結包括利益計算書)			
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益(△:損失)	1,249	△ 149	257
その他の包括利益	△ 209	0	△ 111
四半期包括利益(包括利益)	1,040	△ 149	145

売上高 震災による受注停止の影響などから厨房部門、浴槽・洗面部門ともに減収となり、売上高は前年同期比8.8%減の464億78百万円となりました。

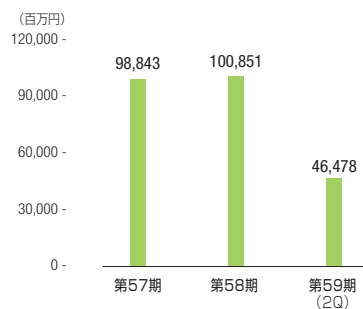
売上原価 震災による受注停止の影響などもあり、売上原価率が前年同期比1.7ポイント上昇し66.8%となりました。

販管費 経費の抑制に努めた結果、販管費を前年同期比10億26百万円減少させることができましたが、減収により、販管費率は同0.8ポイント上昇し32.1%となりました。

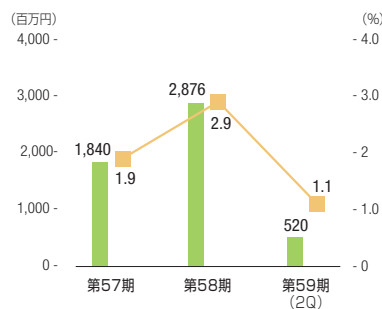
営業利益 減収を主な要因として、営業利益は前年同期比72.2%減の5億20百万円となりました。

四半期純利益 災害による損失4億30百万円を含む特別損失4億79百万円を計上したことから、四半期純損失は1億49百万円となりました(前年同期は四半期純利益12億49百万円)。

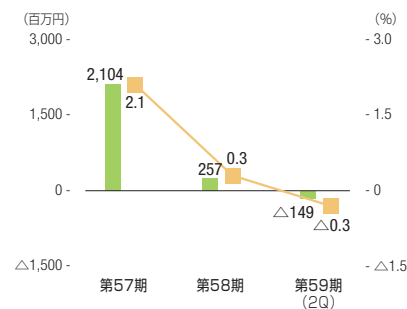
■ 売上高



■ 営業利益・営業利益率



■ 四半期(当期)純利益・四半期(当期)純利益率





■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(百万円)

	第58期2Q累計	第59期2Q累計	第58期
	2010年4月1日～ 2010年9月30日	2011年4月1日～ 2011年9月30日	2010年4月1日～ 2011年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,492	△ 1,408	6,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 493	△ 1,485	△ 1,214
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 757	2,998	△ 1,611
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4	0	△ 10
現金及び現金同等物の増減額	1,237	105	3,917
現金及び現金同等物の期首残高	21,881	25,798	21,881
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	23,118	25,904	25,798

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は14億8百万円(前年同期は24億92百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が22百万円(前年同期比14億41百万円減益)、減価償却費13億84百万円、仕入債務の増加30億23百万円があった一方、売上債権の増加45億44百万円、たな卸資産の増加12億2百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は14億85百万円(前年同期比201.3%増)となりました。これは主に、生産設備の増設及び改修、事業用不動産の取得等有形固定資産取得に伴う支出が12億94百万円、情報システム構築に伴う支出が2億18百万円あったこと等によります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

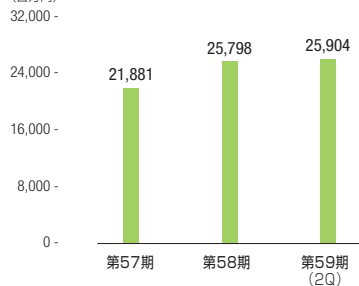
財務活動によって得られた資金は29億98百万円(前年同期は7億57百万円の使用)となりました。これは主に、短期借入金の純減9億円及び長期借入金の約定返済8億23百万円、配当金の支払いが2億33百万円あった一方、長期借入れによる収入が50億円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の四半期末残高

これらにより、現金及び現金同等物の四半期末残高は、前期末に比べ1億5百万円増加して259億4百万円となりました。

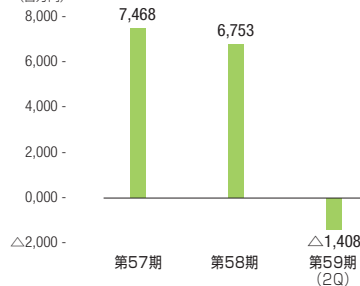
■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高

(百万円)



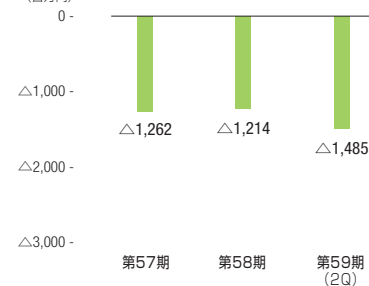
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

(百万円)



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

(百万円)



株主関連情報 (2011年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

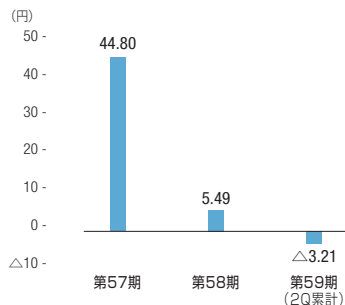
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益をあげ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整

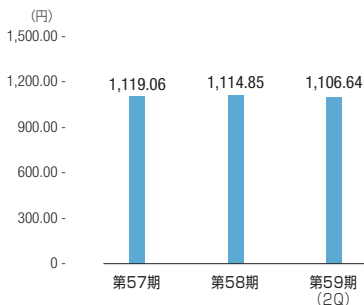
備、情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、当期の中間配当金につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。また、当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり10円の配当を予定しております。

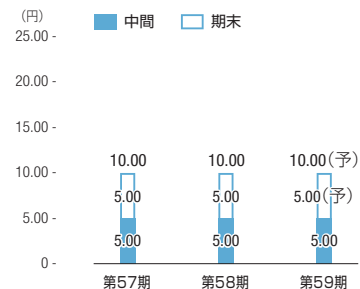
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

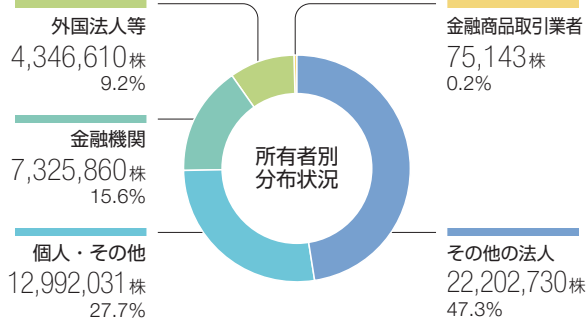


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000 株
発行済株式総数	46,942,374 株
株主数	5,118 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	12,476	26.7
株式会社タカヤス	6,829	14.6
クリナップ社員持株会	2,272	4.8
クリナップ真栄会	1,759	3.7
クリナップ共進会	1,375	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,282	2.7
ザバンクオブニューヨークトリートリージャスデックアカウント	1,250	2.6
井上 けよ	1,133	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	1.6
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注) 持株比率は自己株式(350,576株)を控除して計算しております。

会社情報 (2011年9月30日現在)



■ 会社概要

商号	クリナップ株式会社 Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
電話	03-3894-4771(大代表)
創業	1949年10月5日
会社設立	1954年10月5日
上場	1990年2月6日 東証2部上場 1991年9月2日 東証1部指定
資本金	132億6,734万円
主要営業品目	厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社員数	連結：3,314名 / 単体：2,705名
主な事業所	支社：国内2カ所 支店：国内9カ所 営業所：国内123カ所 海外：香港支店、北京事務所 工場：四倉、鹿島システム、鹿島、湯本、クレート (いずれも福島県いわき市)

■ 役員

代表取締役社長	井上 強 一	取締役相談役	高 嶋 信
取締役	加藤 亨 一	取締役相談役	川合 和 夫
取締役	小島 輝 夫	常勤監査役	山根 康 正
取締役	小松 裕 恒	監査役	猪狩 昌 行
取締役	鈴木 章	監査役	新谷 謙 一
取締役	松浦 昌 孝	監査役	有賀 文 宣
取締役	佐藤 茂		
取締役	屋代 光 昭		

注) 監査役 新谷謙一および有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。

■ ショールーム (全国102カ所)

リテール事業部	1カ所	北陸支店ブロック	5カ所
札幌支店ブロック	4カ所	静岡支店ブロック	4カ所
東北支店ブロック	13カ所	名古屋支店ブロック	8カ所
北関東支店ブロック	6カ所	大阪支社ブロック	11カ所
東京支社ブロック	19カ所	中四国支店ブロック	15カ所
信越支店ブロック	5カ所	九州支店ブロック	11カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。



■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

■ 証券会社等の口座に記録された株式

株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せ下さい。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

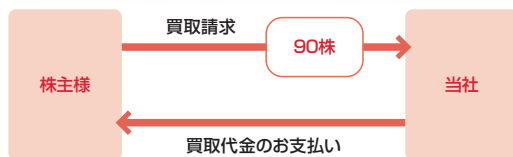
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

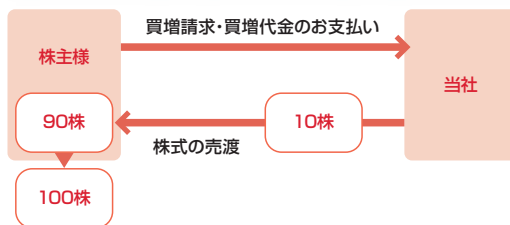
単元未満株式につきましては市場で売買することはできませんが、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せ下さい。

(例) 株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合

買取請求 ご所有の単元未満株式を当社が買い取ります。



買増請求 1単元に足りない株式を当社から購入できます。



■ 特別口座をご利用の株主様へ

特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続をお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せ下さい。

クリナップ®株式会社

東京都荒川区西日暮里6-22-22 〒116-8587 TEL 03(3894)4771

